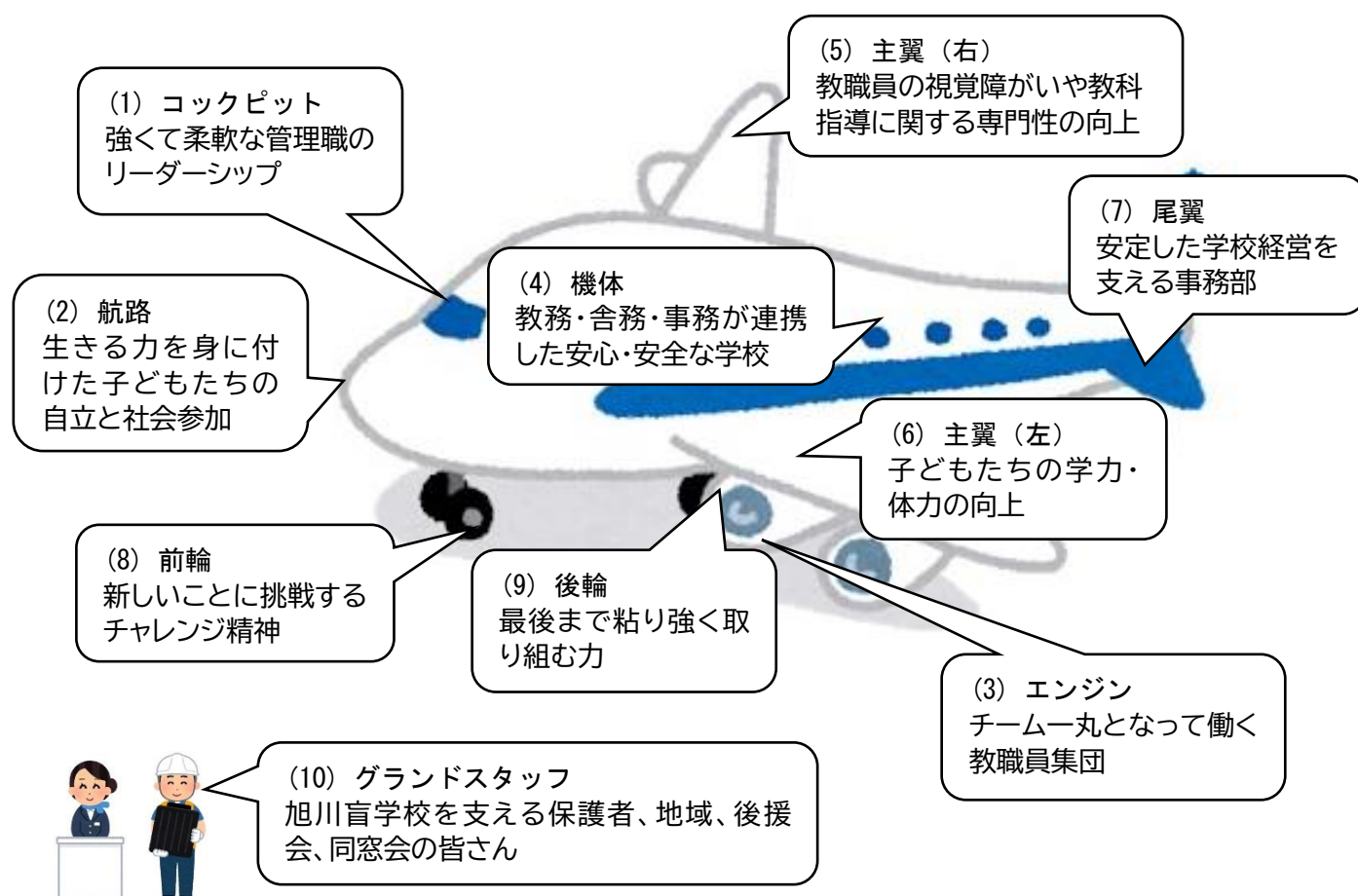


次の100年に向けたコンセプト 「旭盲プレーンモデル（旭盲2021便）」



1 「旭盲プレーンモデル」構想に当たって

本校は令和4年度に創立100周年を迎えます。これまでの歴史と伝統を踏まえ、withコロナ／afterコロナの時代を生きる子どもたちの自立と社会参加に向けて、新しい取り組みを積極的に行っていく必要があります。次の100年に向けた新たな旭川盲学校をつくっていくために、本校教職員が「チーム旭盲」として一丸となって進めて行かなければなりません。

このような状況で、「チーム旭盲」の取り組みを進めていくためには、本校を飛行機に見立てると分かりやすいのではないかと思います、「旭盲プレーンモデル」を作成しました。

飛行機は管制塔からの情報を、機長が適切に判断し、副機長の的確なサポートのもと、レーダーや航空図を頼りに安全な飛行を行っています。学校も校長が国や本庁（管制塔）からの情報を適切に把握し学校としての方向性を示し、教頭先生の確実な学校運営と事務長を中心とした確実な金銭や物品等の管理などが行われることにより、安定した学校経営ができるのではないかと考えます。

また、新学習指導要領においては「社会に開かれた教育課程」が示され、学校と社会が連携・協力にとどまらず、様々な課題を学校と地域が共有し、課題解決に向けて一体となって取り組んでいくことが求められています。そこで、学校を支える保護者、地域、後援会、同窓会の方々をグランドスタッフに見立て「社会に開かれた教育課程」を含めたイメージとしてみました。今後は、国や道教委の施策を踏まえコミュニティ・スクールの導入を見据えた取組を検討していく必要があります。

2 プレインモデル（旭盲2021便）の構成

(1) コックピット（強くて柔軟な管理職のリーダーシップ）

- ・管理職の強いリーダーシップと状況に応じた柔軟な学校経営
- ・学校課題の適切な把握による、学校改善に向けた取組の推進
- ・国や本庁の動向を的確に把握するためのアンテナ受信感度の向上

※Keyword:管理職の資質能力の一層の向上

(2) 航路（生きる力を身に付けた子どもたちの自立と社会参加）

- ・障がいによる学習上または生活上の困難さの克服に向けた自立活動の指導の充実
- ・教務部と舎務部の連携による、自立や社会参加に向けた取組の推進
- ・新学習指導要領を踏まえた、「生きる力」を育むための授業改善

※Keyword:一人一人の実態に応じた指導や支援の充実

(3) エンジン（チーム一丸となって働く教職員集団）

- ・少人数の学校の特性を生かした、子どもたち一人一人の実態に応じたきめ細かな指導
- ・全ての教職員の学校運営への参画
- ・教務部と舎務部の連携による子どもたちの実態に応じた適切な指導や支援の充実

※Keyword:教職員の課題に正面から向き合う使命感

(4) 機体（教務・舎務・事務が連携した安心・安全な学校）

- ・教職員一人一人が緊張感をもった新型コロナウイルス対策の実施
- ・どの学校でもいじめは起こりうるという危機意識をもったいじめ未然防止の取組の推進
- ・体罰や不適切な指導が行われないような教職員同士の連携や声かけ
- ・養護教諭を中心とした子どもたち一人一人の健康観察
- ・栄養教諭や調理員による安全でおいしい給食の提供

※Keyword:「健康で安心・安全な学びの場」とするための教職員間の連携

(5) 主翼（右）（教職員の視覚障がいや教科指導に関する専門性の向上）

- ・視覚障がい領域の免許取得率の向上
- ・各種研修会等への積極的な参加
- ・盲学校、視覚支援学校4校連携による教科指導力向上に向けた取組の推進

※Keyword:常に学び続ける教職員集団

(6) 主翼（左）（子どもたちの学力・体力の向上）

- ・子どもたちが「分かった」「できた」を実感できる授業づくり
- ・子どもたちの障がいの状態や発達段階に応じた効果的なICT機器の活用
- ・子どもたちが運動に親しみ、楽しく運動を行うことができるよう体育授業や寄宿舎活動の充実

※Keyword:子どもたち一人一人の自己肯定感の向上

(7) 尾翼（安定した学校経営を支える事務部）

- ・事務長を中心とした適切な予算執行
- ・適切な金銭及び物品の管理
- ・公務補による校舎内外の適切な環境整備

※Keyword:教職員一人一人の学校予算に対する意識の向上と物品等の整理整頓

(8) 前輪（新しいことに挑戦するチャレンジ精神）

- ・ 常に変わり続けようとする教職員集団
- ・ これまでにない新しい取組の積極的な推進
- ・ ICT機器を積極的に活用した取組の推進

※Keyword: 前年踏襲からの脱却

(9) 後輪（最後まで粘り強く取り組む力）

- ・ これまでの歴史と伝統の中で積みかさねてきた文化の継承
- ・ 何事にも最後まで諦めずに取り組む教職員集団
- ・ 子どもたちに確かな学力と社会で生きるための力を身に付けさせるための丁寧な指導

※Keyword: 不易を大切にした継続した取組の推進

(10) グランドスタッフ（旭川盲学校を支える保護者、地域、後援会、同窓会の皆さん）

- ・ 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け家庭、地域との連携
- ・ 後援会や同窓会の支援による教育活動の充実

※Keyword: コミュニティ・スクールの導入に向けた取組の推進

3 新しい旭川盲学校の創造に向けて

99年という長い歴史と伝統をもつ本校ですが、これまでの歴史と伝統を大切にしていけるとともに、時代の変化に応じた新しい学校を創造していくことが求められます。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、社会の変化はこれまでにないスピードで進んでいます。ネット回線を通じて指1本で世界とつながることができる時代です。また、Society5.0という新しい社会を迎える中、子どもたちに予測困難な社会を生き抜く力を確実に身に付けさせていくためには、私たちも新しい時代に対応することができる力を身に付けていく必要があります。

そのため、教職員一人一人の専門性の向上、地学協働の取組の一層の充実などをおして、次の100年に向けて「プレインモデル（旭盲2021便）」で示したような魅力ある学校を皆さんと作っていきたいと思います。

3年後を見据えた目標

目標1：幼児児童生徒数2桁の維持

目標2：視覚障がい領域の免許取得率の向上

目標3：教職員のICT活用能力の向上